鹿大歯学部に赴任した時の思い出

鹿児島大学名誉教授　**末　田　　武**

鹿児島大学に歯学部が設置されて40年が経過しました。特にこれという大事件もなく今日まで来られたのはご同慶の至りです。これは歯学部に携わった方々のおかげだと思います。

私は昭和55年４月に赴任いたしました。その時のことを思い出して記してみたいと思います。昭和55年４月は一回生が教養課程を修了し学部に進級した年であり，現在の歯学部の建物が完成した年だと記憶しています。赴任する前に研究棟の割り当てられたスペースの設計図に間仕切り，コンセントの位置，給排水管の位置などを書いておきました。赴任して研究室を見て図面上で出来上がりを想像して書いたものと現実のものを目のあたりにして少し違いがあると思いました。しかし一番驚いたのは東京と鹿児島の落差でした。部屋の中には家具類が一つもなくがらんとしていました。早速机，椅子のカタログを事務よりお借りして発注をしましたが物が入るのに早くて１週間かかるとのことでした。理由を聞くと現物は鹿児島にはなく，福岡に問い合わせをし，物があれば取り寄せますがない場合には東京よりの取り寄せになりかなりの時間がかかるとのことでした。椅子もないので段ボールの箱を椅子代わりにして10日くらい過ごしました。東京にいたときには考えもしなかった事態でした。研究室の実験机の設置にも１か月以上かかったと記憶しています。このようなことは実験器具の購入でも当たり前になっていました。病院の治療室についてもあらかじめ図面でお願いしたものと現実との間に落差がありました。東京にいたときには患者さんが非常に多く鹿児島でも同様ではないかと考えて，ユニットとキャビネットを出来るだけ多く配置をしましたが，現場で見てみるとかなり使い勝手が悪い状態でした。実際診療が始まってみますと患者さんも少なく遊んでいるユニットがでてきました。又診療室に配置される看護婦さんも少なく，いろいろ考えさせられました。治療器具については中央滅菌室管理のものがあり，必要なものを考え，カタログを見ながらいろいろ発注をしましたがやはり揃うのに時間がかかりました。歯周治療用のプロトコールを作成するのには横田助教授が中心になり新しいものを作り，その原型が今は日本各地で使用されるようになっています。このように新しい経験をしましたが，これから始まる学生教育のこと，卒後研修のこと，どのような研究を行うかということ，どのような診療体系を作るのということを考え，新しいものを作る楽しみを経験しました。

大学を退官し，現在鹿児島から離れて暮らしています。遠いところから鹿児島大学歯学部を見ていると，歯科界全体でも情報発信は少ないのですが，鹿児島大学歯学部よりの情報は少ないようです。もう少し研究成果や診療内容などが目に付いたらと思っています。鹿児島大学歯学部のこれからのますますの発展をお祈りします。